

イエスの聖テレサ（アヴィラの聖テレジア）の『創立史』

現在、世界の跣足カルメル修道会では、2015年のイエスの聖テレサ（アヴィラの聖テレジア）生誕500年祭に向けての準備に入っています。今年の1月から3月にかけての『カルメルの小窓』では、聖テレサの年表を提示し、10月から作品紹介をしています。今月は『創立史』を紹介します。

この作品は、1573年8月25日の聖ルイ王の記念日から書き始めて1582年のブルゴス創立の後で書き終わっています。また、創立事業の合間にとぎれとぎれに書いていて、プロローグから19章または20章まではサラマンカのイエズス会士リパルダ師の勧めに従って書かれた部分であり（創立史 プロローグ:2参照）、その後の章から27章までは教皇視察師でもあったグラシアン師（跣足カルメル会士）からの指示に従って、1576年11月14日、トレドの修道院で書き上げています（創立史 27:22-23参照）。しかし、その後にもテレサは創立事業を続けてこの作品に付け加えて（ビリャヌエバ・デ・ラ・ハラ、パレンシア、ソリア、ブルゴスの4つの修道院創立）、31章の作品となっています。しかし、執筆年代は研究者によって意見が分かれていますので、ここでははっきり明示することはしません。

テレサが創立した修道院と年代は次のようになります。

1562年8月24日	アヴィラの創立（第一女子修道院）
1567年	メディナ・デル・カンポの創立（第二女子修道院）
1568年	マラゴンの創立（第三女子修道院）
1568年	バリャドリドの創立（第四女子修道院）
1568年11月28日	ドゥルエロの創立（第一男子修道院）
1569年	トレドの創立（第五女子修道院）
1569年	パストラナの創立（第六女子修道院） 〃（第二男子修道院）
1570年	サラマンカの創立（第七女子修道院）
1571年	アルバ・デ・トルメスの創立（第八女子修道院）
1574年	セゴビアの創立（第九女子修道院）
1575年	ベアス・デ・セグラの創立（第十女子修道院）
1575年	セビリアの創立（第十一女子修道院）
1576年	カラバカの創立（第十二女子修道院）

1580年	ビリャヌエバ・デ・ラ・ハラの創立 (第十三女子修道院)
1580年	パレンシアの創立 (第十四女子修道院)
1581年	ソリアの創立 (第十五女子修道院)
1582年	ブルゴスの創立 (第十六女子修道院)

以上が聖テレサの創立した修道院ですが、第一の創立物語であるアヴィラのサン・ホセ修道院の報告は、『自叙伝』の中にありますので、『創立史』の中の報告は、アヴィラのサン・ホセ修道院創立以外の報告となっています。また、『創立史』の最初の出版がブリュッセルにおいて、グラシアン師とアンア・デ・ヘスス修女によって行われました(1610年)が、グラシアン師が修正して出版しています。この出版した作品にはアンナ・デ・ヘススの創立したガラナダ修道院も付け加えられていました。スペインでは1588年にルイス・デ・レオン神父がテレサ作品を出版していますが、この『創立史』は含みませんでした。スペインでは、1880年まで待つこととなりますが、しかし複写を出版することになります。

また、タイトルが『創立史』となっていますが、元々のタイトルはありませんでした。単に創立の歴史に還元できませんし、テレサは次世代に残す意味で、教育的要素もあり、心理的・キリスト教神秘的要素も含んでいます。何よりも、テレサが強調したいのは、主なる神の御業によって創立されたという、テレサ的カリスマの報告となっています。

次に『創立史』の構成をイエスの聖テレサの研究家の一人、トマス・アルバレス師の『創立史の解説』から紹介します。

第一章	最初の修道院の牧歌的時期とインディアから来た宣教師の報告
第二章	アヴィラでの総長ルベオ師との出会いと、テレサへの創立許可書の授与
第三章	メディナ・デル・カンポの女子修道院創立
第四章	忠告と指示<神の恵みと7人の修道女の生活>
第五章	祈りについてのいくつかの忠告；完全な祈りの実体
第六章	祈りの生活にありがちな過度と危険
第七章	祈りの生活の中のひとつの歪んだ病気<メランコリー>
第八章	祈りの超常現象のための勧告
第九章	マラゴンの女子修道院創立
第十章	バリャドリドの女子修道院創立

第十一章	ドニャ・カシルダ・デ・バディリヤの召命
第十二章	ベアトリス・オニェスの召命
第十三章	ドゥルエロの男子修道院創立（１）
第十四章	ドゥルエロの男子修道院創立（２）
第十五章	ドレドの女子修道院創立
第十六章	徳の実践
第十七章	パストラナの女子修道院・男子修道院創立
第十八章	サラマンカの女子修道院創立と院長方への忠告
第十九章	サラマンカ女子修道院創立の続き
第二十章	アルバ・デ・トルメスの女子修道院創立
第二十一章	セゴビアの女子修道院創立
第二十二章	ベアス・デ・セグラの女子修道院創立
第二十三章	ヘロニモ・グラシアン師との出会いとセビリヤの女子修道院 創立
第二十四章	セビリヤの女子修道院創立の続き
第二十五章	セビリヤの女子修道院創立の開所式
第二十六章	セビリヤへの別れと最初のアンダルシア人の召命
第二十七章	カラバカの女子修道院創立
第二十八章	ビリャヌエバ・デ・ラ・ハラ女子修道院創立
第二十九章	パレンシアの女子修道院創立
第三十章	ソリアの女子修道院創立
第三十一章	ブルゴスの女子修道院創立
終章	アヴィラのサン・ホセ修道院を教区からカルメル ファミリーの中に移した報告

尚、ローマの総長館から出された『創立史の読書ガイド』から、この作品を幾つかのテーマによって読むことができるので紹介します。

- 1) 従順の徳：創立史を書き始めたところから
- 2) 霊魂の救いと宣教の熱意
- 3) テレサ的共同体の清貧
- 4) 祈りと召命の識別
- 5) 私たちの源泉（師父たち）の記憶の重要性とこれからの人たちの礎となることを引き受けること
- 6) 修道会の記憶のために残すべき判例となるある人の物語
- 7) 創立を始め、同伴し、完成する神の摂理

8) 終末的視点：永遠の生命の張力の中での希望の約束

最後に、テレサのこの作品は、前の『自叙伝』と『完徳の道』の視点よりも進展した「靈的婚姻」に入った視点ですので、靈的に成熟しています。この「靈的婚姻」はキリストとより一致していますので、祈りと活動とは二分することなく、調和した靈的生活となっています。特に 5 章の祈りについての勧告は、その表れを持っています。この個人的靈的成熟の道は、次の『靈魂の城』に譲ることになるでしょう。この『創立史』は「靈的婚姻」に入った実りともなっています。

<参考文献>

- TERESA DE JESÚS, *Obras completas*, Diligida por BARRIENTES, Alberto Ed. EDE, Madrid 2000
- ÁLVRES Tomás(Dir.), *Diccionario de Santa Teresa de Jesús*, Ed. Monte Carmelo, Burgos 2006
- ÁLVRES Tomás, *Comentarios al libro de las Fundaciones de Santa Teresa de Jesus*, Ed. Monte Carmelo, Burgos 2011
- “*Guión para la lectura de Fundaciones*”, Casa general, Roma,2011
- “*GUIA DOCTRINAL de Fundaciones*”, Casa general, Roma,2011

文責 松田浩一 神父 カルメル会士